Fender®
Guitars Amplifiers U.S.A.

Fender Electric Instrument Companyの最初のモデル、"ブロードキャスター"が誕生したのは1948年。以来30余年の歳月が流れた。その間にカントリー&ウエスタン、ジャズ、ロックンロール、リズム&ブルース、ロック、フュージョンと音楽の流行は変わっても、ミュージシャンの愛用楽器からフェンダーがはずされたことはない。音楽を愛するしかもプロフェッショナルなミュージシャンたちはフェンダーに流れる楽器作りの伝統を見のがせないからだろうか。

ミュージシャンのルーツを適確に表現してくれる、音楽することを知っているフェンダー。これほどまでプロミュージシャンたちにとってフェンダーでなければならない理由は一体何なのだろうか。ひとことで表わすなら音の違いということになるのかもしれない。確かに楽器が製作されるにおいて、科学技術の力によるところが大きい。いろいろなデーターをつきつめれば、ある程度のものは今や簡単にできてしまう。でも、同じ様な形をしていても音の違いは明らかにある。フェンダーの音はあくまでフェンダーであって、分析できない何かをもっている。目や耳で感じとれない何か。音楽が楽器への愛情表現と同時に演奏者との格闘であるはずなら、フェンダーは形こそ違えまさに人間であり、その何かとはミュージシャンの音楽魂と同じものなのかもしれない。確かにフェンダーには魂がある、それを知った時 より一層フェンダーの表現力に気がつく。そしてその時からミュージシャンのテクニックとフェンダーの 表現力との競争がはじまり、また音楽が新しくなる。

オリジナルヘッドデザイン

30年以上前にデザインされたヘッドスタイルが今なお斬新で、しかも機能的なのはそれなりの理由がある。

フェンダー・E.ギターとE.ベースにはヨーロッパのクローシャン(帽子の形)と、Fenderの頭文字でもある"F"をデザインしたオリジナル・ヘッドを採用しています。このヘッド・デザインは単にスタイリングのみのものでなく、糸巻を片側にすべてセットすることが可能で、ナット部に余分なテンションをかけず、さらに同一方向のギヤ回転でチューニングができるという、音響工学、人間工学からも考えられたものです。今や、これらのヘッド・デザインは、フェンダーのトレード・マークともなっています。

また、ヘッドにマウントしてあるオリジナル糸巻きは、ストリング・ポストにより、弦のスリップを押さえたスチール&ブラス製のものです。

ネック

手にしてわかる自然なフィット感覚、スムーズに、そしてスピーディーにフィンガリングできる秘密がここにある。

フェンダーのギターとベースはネックの幅、厚み、指板のラウンドなどにも充分な研究を積み重ね、素早い演奏と楽なプレイにマッチしたネックと指板を採用しています。そのため、初めてフェンダーを手にする場合にも自然なフィット感覚が味わえます。フェンダーにはポピュラーなローズ指板の他に指板とネックを一体化させたメイプル・ワンピース・ネックもあります。これはフェンダーのプロト・モデルから採用しており、音色的にも大きなウェイトを占めているほか、高度な木工技術の証しでもあります。また、ベースには重低音を得るためにロング・スケールのネックを採用しています。スーパーストラト、スーパープレシジョンスペシャルには厳選したアメリカンブラックウォールナット材を採用し、繊細な音の要求に応えます。

ボディ

材質とデザインの違いで音は微妙に変化する。だからフェンダーはフェンダーだけの音がする。

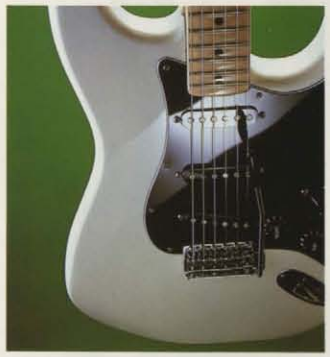
ハイ・ポジションでのプレイが容易なダブルカッタウェイ、シングルカッタウェイのボディを採用しています。さらに"offset"シェイプドウエスト・ボディのため、演奏形態を問いません。いくつかのモデルは、より演奏者の身体にフィットするよう、大胆なバック・カットがなされています。フェンダーのギターとベースのほとんどは、ホワイト・アッシュによるソリッド・ボディです。スーパーストラト、スーパープレシジョンスペシャルはアメリカンブラックウォールナット材です。アッシュの枯れたソリッド&マイルドなサウンドに艶やかさをプラスした音を生み出します。

ネックとボディジョイント

誕生以来守り続けられたネックのジョイント方式に、アメリカンミュージックのスピリットが生きている。

すべてのギター、ベースは金属プレートと3本ないし4本のネジでネックとボディをジョイントしたデタッチャブル方式を採用しています。このデタッチャブル・ジョイントは、弦の張力に対する強度を持ち、生産的にも合理化が可能。さらに数々のアクシデント(例えばネック折れ)に対しても他のジョイント方式にないメリットを持っています。このため、フェンダーは永年デタッチャブル方式を採用してきており、今やひとつのポリシーと考えています。

数モデルに採用してある3点止めデタッチャブル方式には、ボディとネックの角度を自由に調整できる"Micro-Tilt"アジャストメント機構(特許)をジョイント部に内蔵しています。



ピックアップ

ボディとのデリケートな関係、それはフェンダーサウンドの謎。だから流行を超え、世界のステージに君臨する。

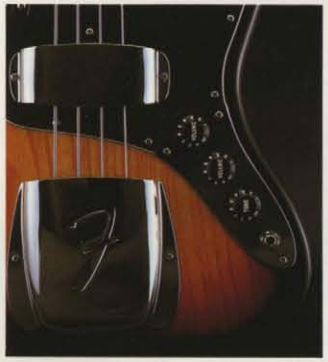
フェンダーのギターとベースにはワイドレンジ・タイプのシングルコイル・ピックアップとハムバッキング(ダブルコイル)・ピックアップの2タイプのピックアップが採用されています(Bassには、現在シングル・コイル・ピックアップのみ)。この2タイプのピックアップは、フェンダー・サウンドに欠かせない特徴となっています。シングルコイル・ピックアップはポールピース自体が磁石となっており、固定されているため、弦ごとのアジャストは不可能ですが、最もよいバランスを保つよう設計されています。また、同じシングルコイル・ピックアップでも、メタルカバード・タイプのものや、スプリット・タイプ(高音部と低音部によって分けられ各々を直列接続したもの)のものなど、そのモデルにマッチしたピックアップを採用しています。これはハムバッキング・ピックアップをマウントしたモデルにも同じことが言えます。

コントロール

シンプルにしかも演奏性を重要視したコントロールのレイアウトにフェンダーのポリシーが見える。

コントロール類はシンプルな中にも、ユニークなスタイルを備えたモデルが多く、演奏者の要望に沿うことが可能なワイド・バリエーションの音創りができます。ポピュラーなボリューム&トーン・コントロールの他に、2モード・バリエイションスイッチ、フェイズ・スイッチ、デュアル・サウンド・スイッチなど、流行のコントロールの付いたモデルもあります。

ボディにマウントされたすべてのコントロール類は、演奏しやすいレイアウトになっており、素早いコントロールが可能で、しかも演奏の邪魔にならないようになっています。

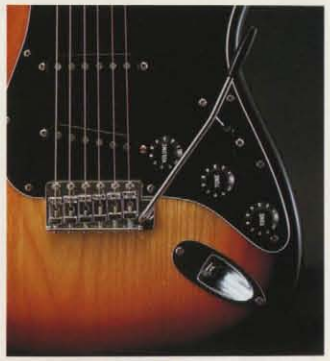


トレモロ・ユニット

音楽の流行を変えたこともあるフェンダーのトレモロサウンドにエフェクターの原点があった。

ギターのいくつかのモデルにはフェンダーならではのエフェクトである、トレモロ・ユニットが内蔵されていたり、オプションとして取り付けることが可能です。これも大きな特徴と言えます。

音響的な意味で言えば、このフェンダーのトレモロはピッチの変化(Frequency Modulation)、つまりビブラートを得るものでここで言うトレモロはあくまでもフェンダー独自のエフェクト名称と考えて下さい。現在はストラトキャスターのシンクロナイズドトレモロとムスタングのダイナミックトレモロの2種ですが、テレキャスターについてはオプションとしてBigsby社のトレモロを取り付けることも可能です。



レジスターマーク

®…こんな小さなマークの中にフェンダーの全てが凝縮されている。

STRATOCASTER®、TELECASTER®、THE-STRAT®、MUSTANG®、JAZZ BASS®、PRECISION BASS®、これらはすでにオリジナルを超えて代名詞的存在になってしまったほどポピュラーな名前ですが、それぞれの名前の終りに®のマーク、つまりレジスターマークが必ずついています。これは登録商標を表わすマークであり、フェンダー以外にはつけることのできない名前であることの証明です。もちろんFENDER®という名前についても同様です。

ハードウェア(パーツ)

音楽性と先進性そしてファッション性をも秘めたパーツひとつがミュージシャンの誇りを満たしてくれる。

全てのパーツはフェンダーのアイデアの結晶、ミュージシャンの要求を実現してくれます。豊富なオリジナルブラスパーツ(ザ・ストラト、プレシジョンスペシャルには標準装備)は音響的な効果はもちろん、エポキシM52仕上げにより半永久的に光沢を失うことがありません。また1981年に発表されたスーパーストラトなどのモデルの中にはHEAVY GOLD ELECTROPLATE HARDWAREを採用、これはブラスパーツの表面に金メッキを施したもので音響的にも、また耐錆性、光沢にも優れた、現存する楽器の中でも最高のハードウェアです。これらを用いたフェンダーのギター、ベースは楽器、銘器を超え、まさに芸術品の域に達しました。